

羽ノ浦地区施設整備計画

令和3年3月

阿南市

目次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の背景と趣旨	
2	計画の位置づけと期間	
3	計画の策定体制	
第2章	子どもと子育て家庭を取り巻く状況	3
1	阿南市の現状	
2	羽ノ浦地区の現状	
3	羽ノ浦地区施設整備に関するアンケート結果	
4	今後の教育・保育施設の課題	
第3章	計画の基本的な考え方	17
1	教育・保育の一体的提供	
2	基本計画	
3	民間活力の導入の推進と公立との連携	
第4章	施策の展開	18
1	計画の進行	

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と趣旨

本市の羽ノ浦地区では、比較的都市化が進行しており、子育て世帯による一戸建て住宅の建設が増加し、保育を必要とする児童数の増加も予想されています。現在、羽ノ浦地区では、保育所3施設、認定こども園2施設で就学前教育・保育を行っていますが、羽ノ浦くるみ保育所が築45年、羽ノ浦さくら保育所が築50年をそれぞれ経過しており、老朽化が著しく、特に羽ノ浦さくら保育所においては一部耐震性の欠如や駐車場の不足等により保護者の皆様や現場の保育士からも早急に対策が必要であるとの切実な声も届いており、施設整備は喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、可能な限り速やかに安心して快適な保育環境を実現するため、幅広い選択肢のもと新たな方針を打ち出していくことが必要であるとの認識により、今後の羽ノ浦地区における本市の施設整備のあり方を定め、地域の皆様の協力のもと、施設整備事業を計画的に推進していくため「羽ノ浦地区施設整備計画」を策定するものです。

2 計画の位置づけと期間

(1) 計画の位置づけ

本計画の策定にあたっては、本市の上位計画である阿南市総合計画における幼稚園と保育所の認定こども園への移行等による財政の効率化や民間活力の導入などの行政経営の視点に立った改革の推進、また、令和2年3月に策定した第2期阿南市子ども・子育て支援事業計画における認定こども園化年次計画との整合・調整を図りながら策定するものです。

(2) 計画の期間

本計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

また、本市の就学前教育・保育に関するニーズや社会情勢の変化の中で、本計画が効果的に実現するよう進捗状況を管理するとともに、必要に応じて計画の見直しを行うなど弾力的な対応を図ります。

令和2年	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
策定	羽ノ浦地区施設整備計画（適宜見直し）				

3 計画の策定体制

計画の策定にあたり、羽ノ浦地区の教育・保育施設を利用している世帯を対象に、羽ノ浦地区における保育施設等の今後の利用意向、行政施策へのニーズなどを把握することを目的にアンケート形式の調査を実施し、計画策定の基礎資料としました。

さらに、阿南市保健福祉部こども課を中心に庁内の関係各課で検討及び協議を行うとともに、阿南市子ども・子育て会議における意見を計画に反映しています。

第2章 子どもと子育て家庭を取り巻く状況

1 阿南市の現状

(1) 人口の動向

① 人口の推移と今後の推計

令和2年4月1日時点の人口総数 72,193人

(平成28年と比較して3,035人減少)

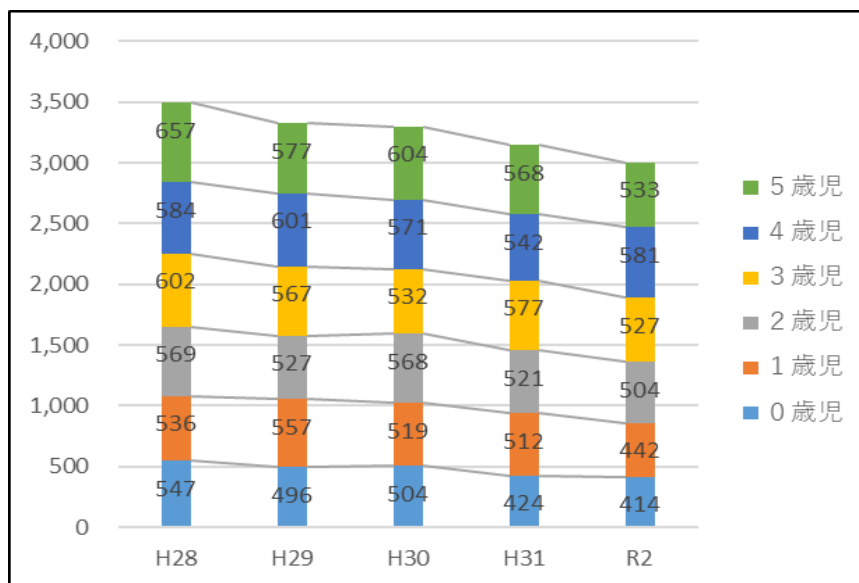
今後の推計における令和6年の総人口 69,012人(見込み)

② 子どもの人口(就学前)の推移

子どもの人口(就学前) 令和2年4月1日時点 3,001人

(平成28年と比較して494人減少)

	H28	H29	H30	H31	R2
0歳児	547	496	504	424	414
1歳児	536	557	519	512	442
2歳児	569	527	568	521	504
3歳児	602	567	532	577	527
4歳児	584	601	571	542	581
5歳児	657	577	604	568	533
計	3,495	3,325	3,298	3,144	3,001



2 羽ノ浦地区の現状

(1) 羽ノ浦地区の人口の動向

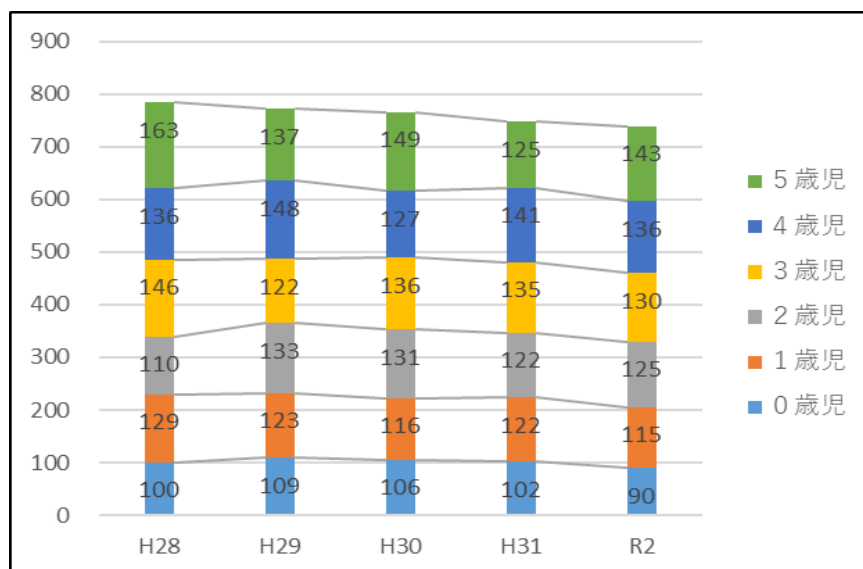
① 羽ノ浦地区の人口の推移

令和2年4月1日時点の人口総数 13,244人
 (平成28年と比較して21人減少)

② 羽ノ浦地区の子どもの人口（就学前）の推移

令和2年4月1日時点 739人
 (平成28年と比較して45人減少)

羽ノ浦地区		(各年4月1日)				
	H28	H29	H30	H31	R2	
0歳児	100	109	106	102	90	
1歳児	129	123	116	122	115	
2歳児	110	133	131	122	125	
3歳児	146	122	136	135	130	
4歳児	136	148	127	141	136	
5歳児	163	137	149	125	143	
計	784	772	765	747	739	



(2) 羽ノ浦地区における教育・保育施設の設置状況、利用状況等

令和2年度において羽ノ浦地区に設置されている教育・保育施設は、保育所3箇所、認定こども園2箇所の計5箇所となっています。

■ 保育所等の在籍児童数の推移（各年度4月1日）

施設名		定員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
在籍 児童数	くるみ保育所	150	142	125	116	109	112
	さくら保育所	150	153	135	142	135	125
	あざみ保育園	30	31	29	32	26	30
	岩脇こどもセンター (すみれ・こぼと)	150	—	136	131	141	140
	はのうら幼稚園	90	93	96	—	—	—
		150	—	—	101	120	138
定員数(人)			550	570	630	630	630
在籍児童数(人)			541	521	522	531	545
充足率(%)			98.4	91.4	82.9	84.3	86.5

3 羽ノ浦地区施設整備に関するアンケート結果

(1) アンケート調査概要

① 調査の目的

本計画を策定するにあたって、「羽ノ浦地区の保育所・認定こども園施設整備に関するアンケート調査」を実施しました。この調査は、羽ノ浦地区の保育所、認定こども園の整備に向けた取り組みのひとつとして、現在、羽ノ浦地区の保育所、認定こども園を利用されている保護者の皆様を対象に実施しました。

② 調査の方法、回収状況等

アンケート調査の方法や回収状況は次のとおりです。

■ 調査の実施概要

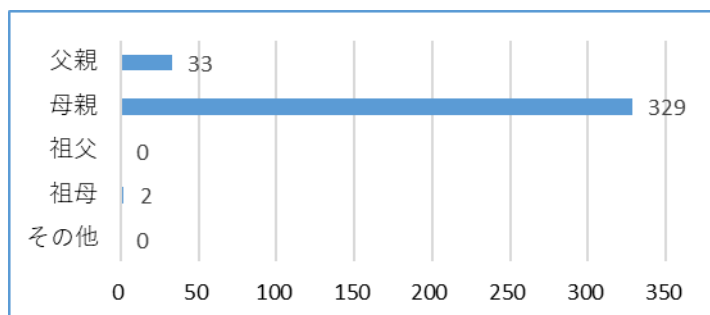
調査対象	羽ノ浦地区の保育所、認定こども園を利用されている保護者
調査方法	利用施設による配付・回収
調査期間	令和2年9月18日から10月2日

■ 調査票の回収状況

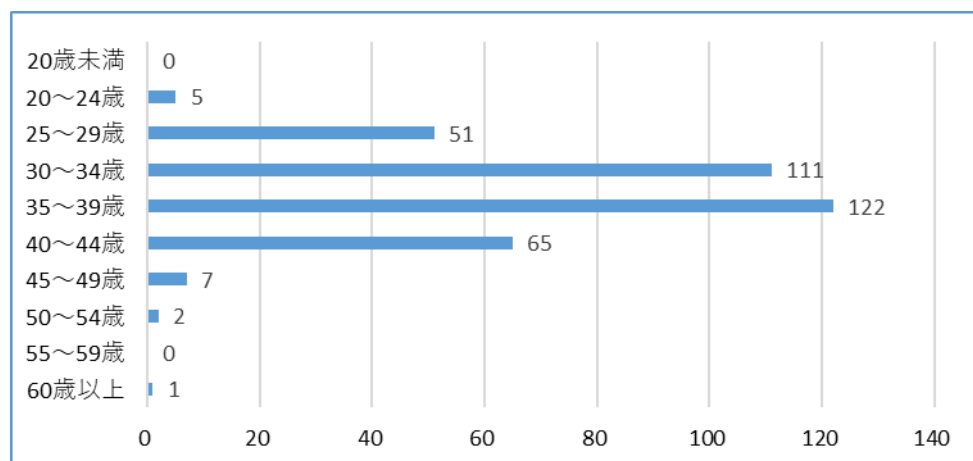
施設名	配付数	回収数	有効回収率
羽ノ浦くるみ保育所	90	78	86.6%
羽ノ浦さくら保育所	100	81	81.0%
岩脇こどもセンター	110	107	97.2%
あざみ保育園	30	24	80.0%
はのうら幼稚園	100	75	75.0%
合計	430	365	84.8%

(2) 集計結果

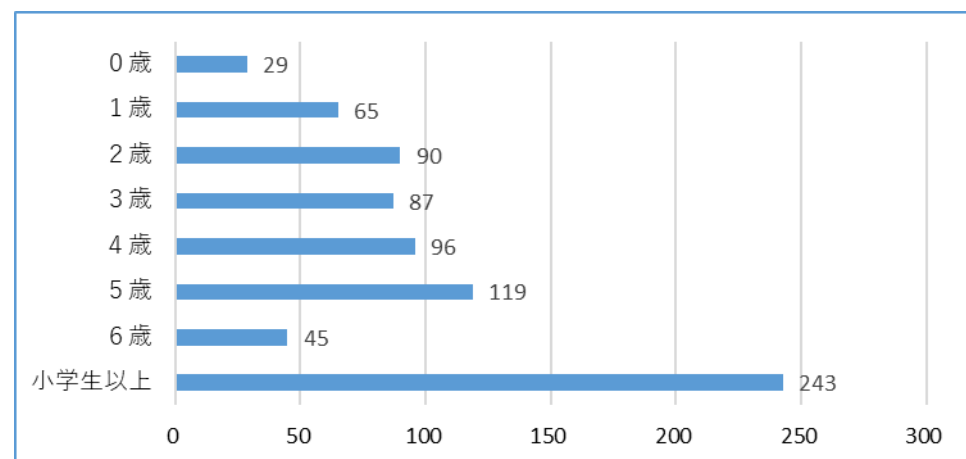
問1 あなたとお子さんの続柄は何ですか。



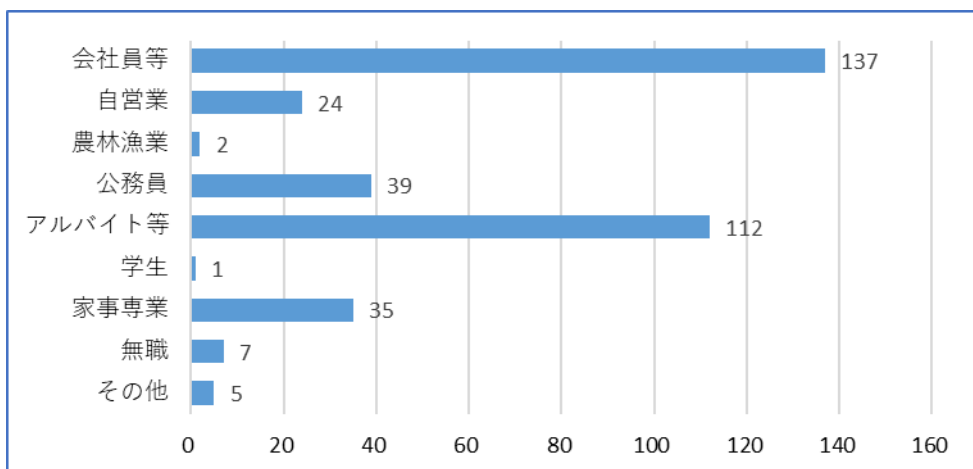
問2 あなたの年齢は、どれにあてはまりますか。



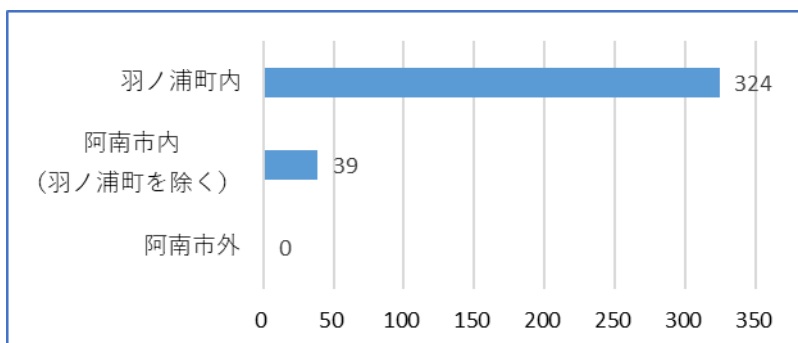
問3 お子さんはおいくつですか。(令和2年9月1日現在)



問4 あなたの現在のご職業は次のどれにあてはまりますか。

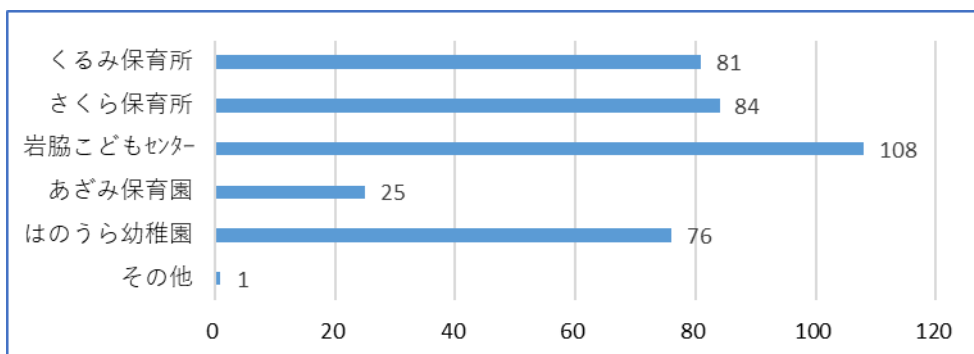


問5 あなたのお住いの地域はどこですか。

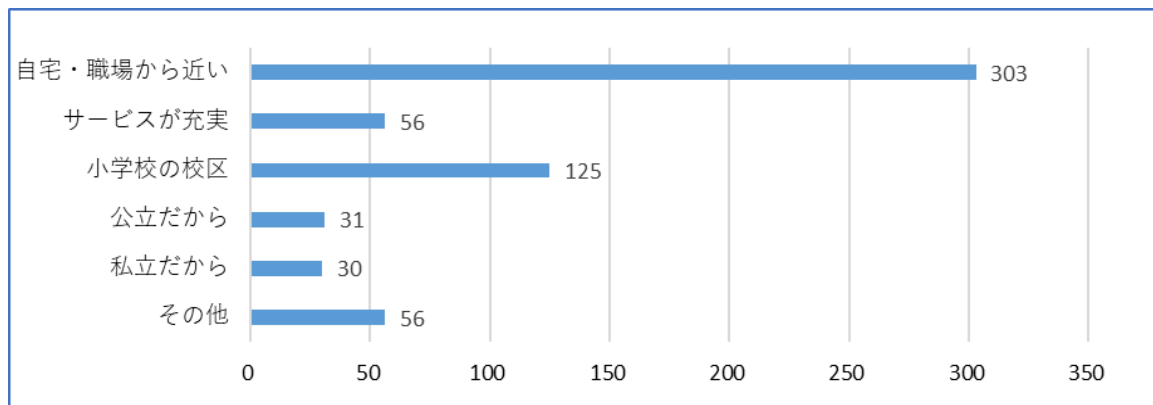


問6 お子さんが通っている教育・保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）についておうかがいします。

(1) 現在、どこの教育・保育施設に通っていますか。（複数回答）

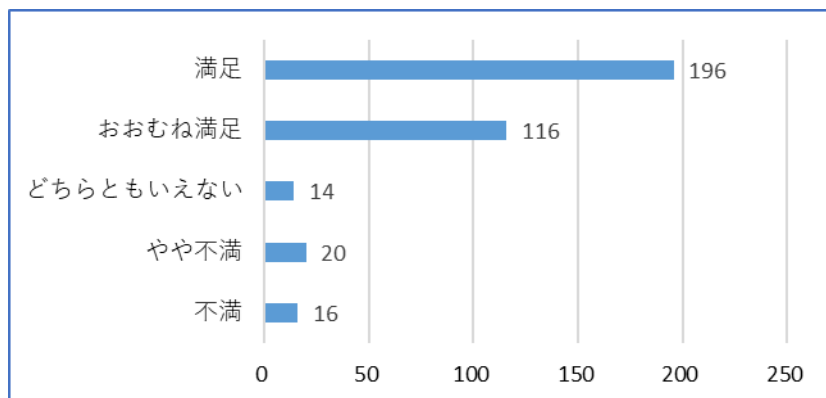


(2) その教育・保育施設を選んだ理由は何ですか。(複数回答)

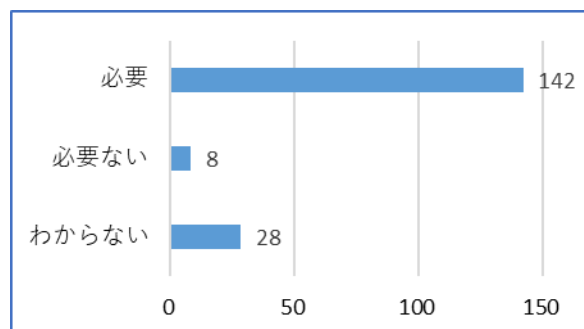


その他 ○自分が小さい頃通っていたから ○祖父母の家が近いから ○短時部があるから
 ○空きがなく選択の余地がなかった ○教育方針が気に入ったから
 ○園の雰囲気と子どもたちに対する保育が優しく丁寧

(3) その教育・保育施設に満足していますか。

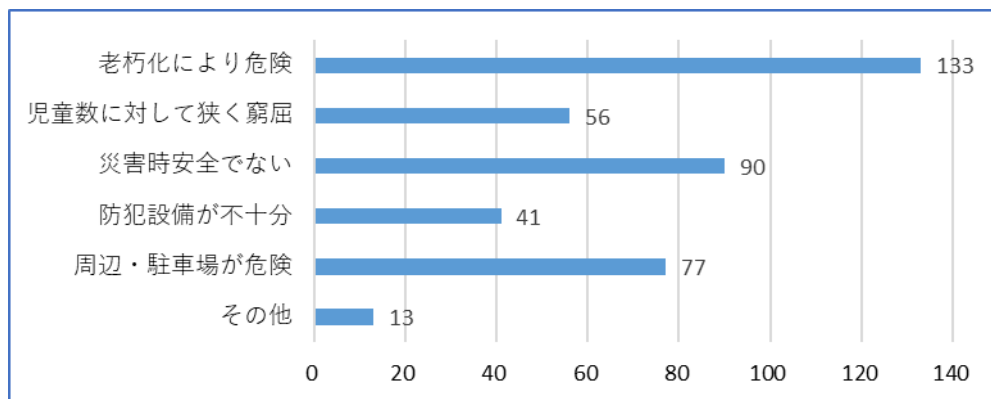


(4) その教育・保育施設は、整備等が必要だと思いますか。



(岩脇こどもセンター、はのうら幼稚園を除く)

(5) どんなところに整備の必要性を感じますか。(複数回答)

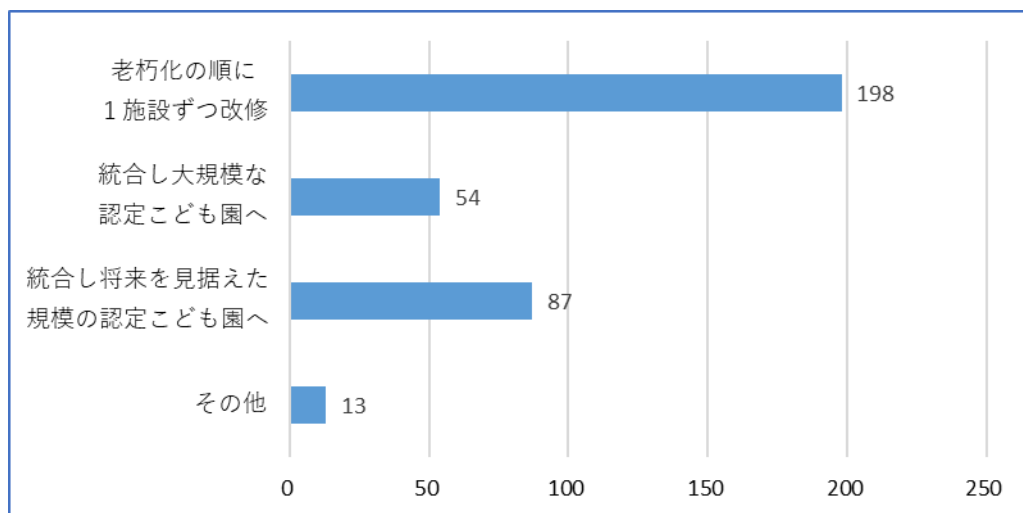


(岩脇こどもセンター、はのうら幼稚園を除く)

その他 ○駐車場が狭い、少ない ○道路が狭い ○遊具が少ない ○大人用トイレが少ない

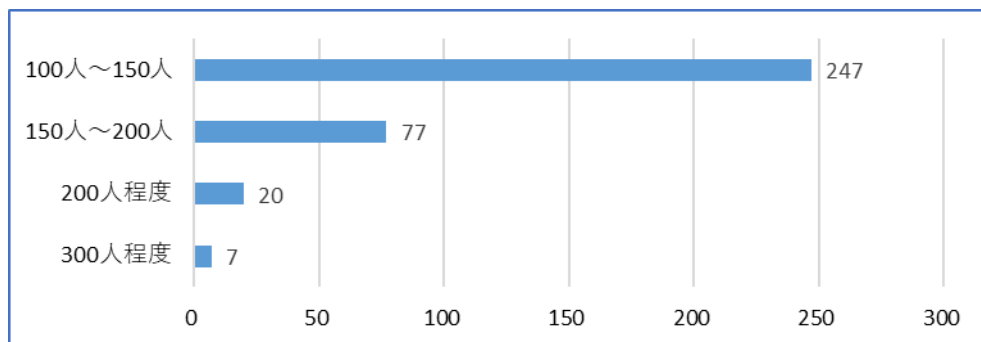
問6では、利用している教育・保育施設について、約86%の保護者が「満足・おおむね満足」と回答しているが、施設の整備の必要性については約80%の保護者が施設整備が必要だと回答しており、老朽化により災害時に危険だと感じています。(施設が新しい岩脇こどもセンターとはのうら幼稚園を除く。)

問7 今後、羽ノ浦地区の教育・保育施設の整備等を行う場合、どのように進めるべきだと思いますか。



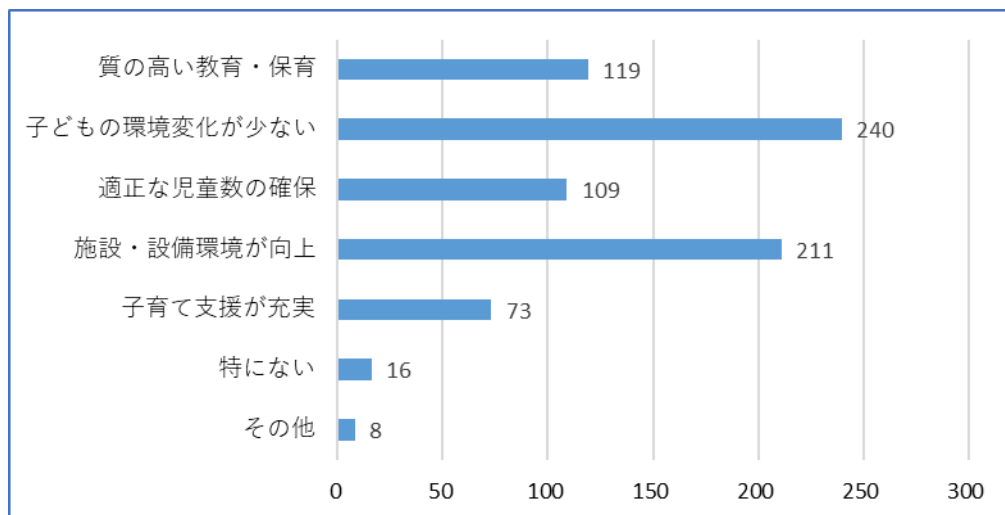
その他 ○老朽化が進んでいる施設を同時に改修
 ○公立の幼稚園の新設
 ○子どもを産みたいと思える預けやすい保育施設
 ○羽ノ浦小学校に隣接してほしい
 ○まず羽ノ浦小学校の老朽化対策が大切

問8 羽ノ浦地区の教育・保育施設の整備等を行う場合、1施設当たりどのくらいの利用定員が適切だと思いますか。



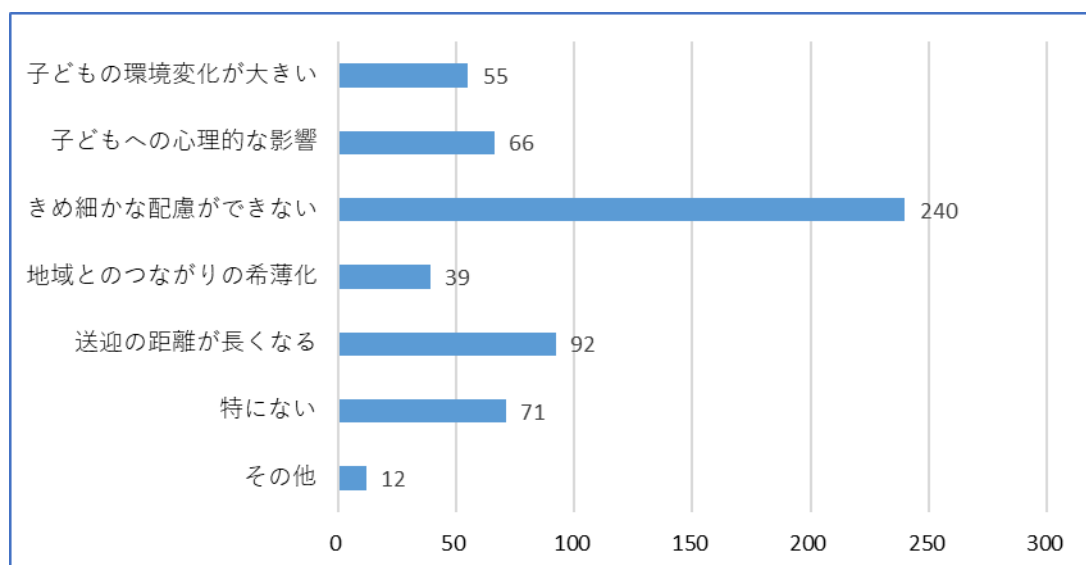
問7では、「老朽化の順に1施設ずつ改修」が最も多く、次に「統合し、将来を見据えた規模の認定こども園へ移行を進める」の順となっており、問8では、約70%の保護者が「100人～150人」が適正規模だと回答している。このことから、統合により大規模な施設へ移行するよりも、将来を見据えた規模での建て替えが望まれていることがわかります。

問9 認定こども園への移行を進める場合、あなたが期待できると感じること、メリットであると感じることは何ですか。(複数回答)



- その他
- 保育と幼児教育両面からの向上。共に高めあってほしい
 - 専業主婦家庭でも通わせることができる
 - 育休中もこども園なら短時間で保育してもらえる

問 10 認定こども園への移行を進める場合、あなたが不安に感じること、デメリットであると感じることは何ですか。（複数回答）



その他 ○期待する反面、保育所と幼稚園での先生同士の人間関係が不安

○幼稚園がなくなる

○こども園になった場合、土曜保育、延長保育がないのは大変困る

○長期休みの際、仕事理由以外での預かりが利用しにくい（1号）

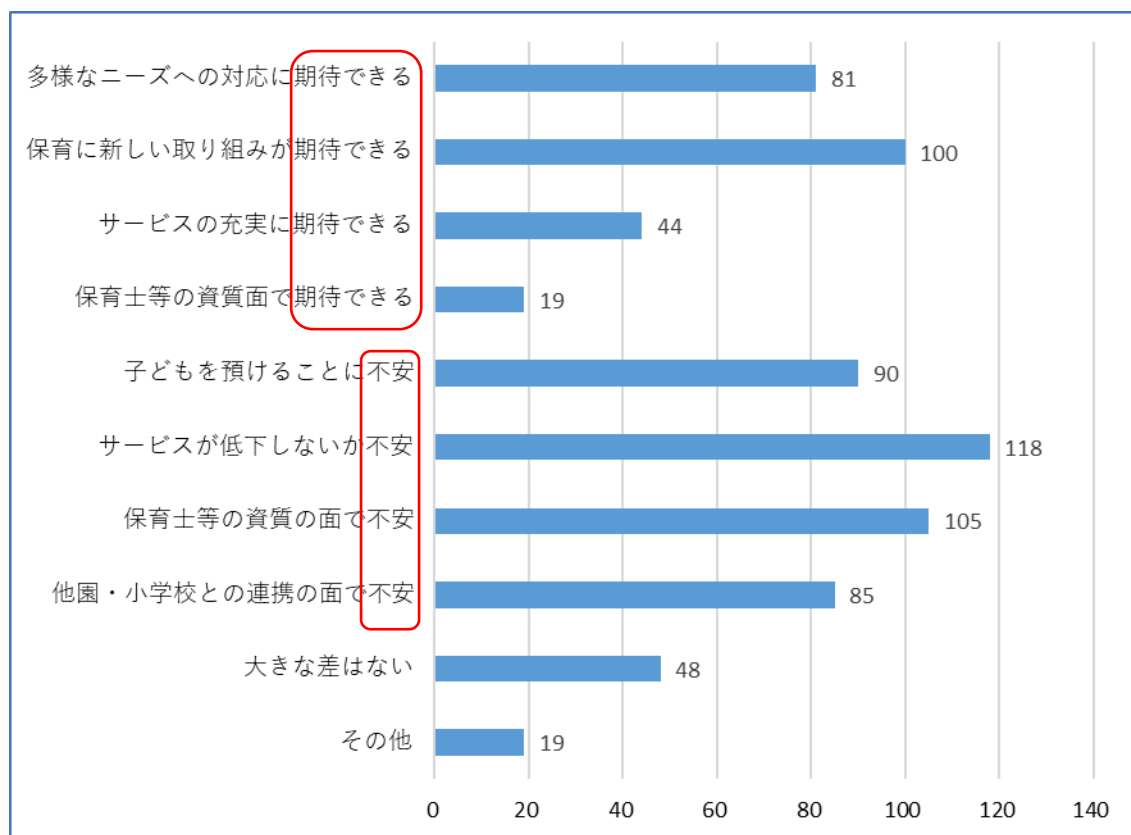
○長く在籍する信頼できる教員（保育士）さんが減りそう（ずっと施設にいてくれるので保護者にとって安心感がありました。）

○現在でも送迎時間は駐車場周辺が混雑しているのに、統合したらよりひどくなる
ことが予想され、子どもも危ないし親も不便。なるべく分散させた方がいいのではないか。

問9 メリットについては、①「子どもの環境変化が少ない」②「施設・設備環境が向上」③「質の高い教育・保育」の順となっており、②では、施設の老朽化が解消されると感じています。

問10 デメリットについては、「きめ細かな配慮ができない」が約41%で最も多く、認定こども園に移行すると利用定員が増えるという印象を持っていると推測できます。

問 11 教育・保育施設が指定管理者や民間事業者によって管理・運営されることについてどう思いますか。(複数回答)



その他 ○保育料以外の金銭面での負担 追加徴収等が多くないか不安がある

○市でも民間でも愛をもってやればどちらでもいい

○何かあった時の責任が市ではなく民間事業者になることが不安

○公立の認定こども園を民間をこえるレベルで運営してほしい

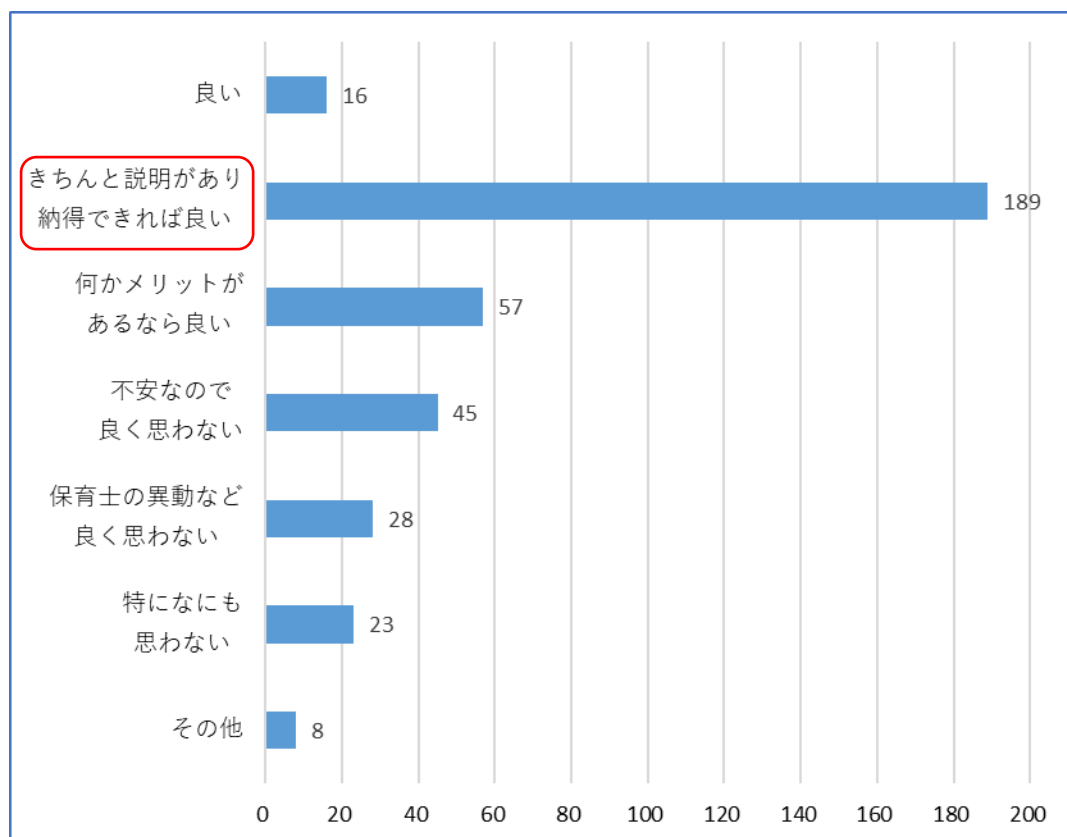
○運営する企業等の価値観で差がでそう。運営は民間でも良いと思うが、管理は市ですべき。(一時期県外でひどいニュースが多かったの。)

○選択肢が増えるのはありがたい

○施設が増えるのはありがたいですが、営利目的のために子どもたちにとって不安な状況にならないよう規定を設けていただきたい

○施設運営者の力の差が出るため、不安があっても運営改善されにくい(見極めが必要)

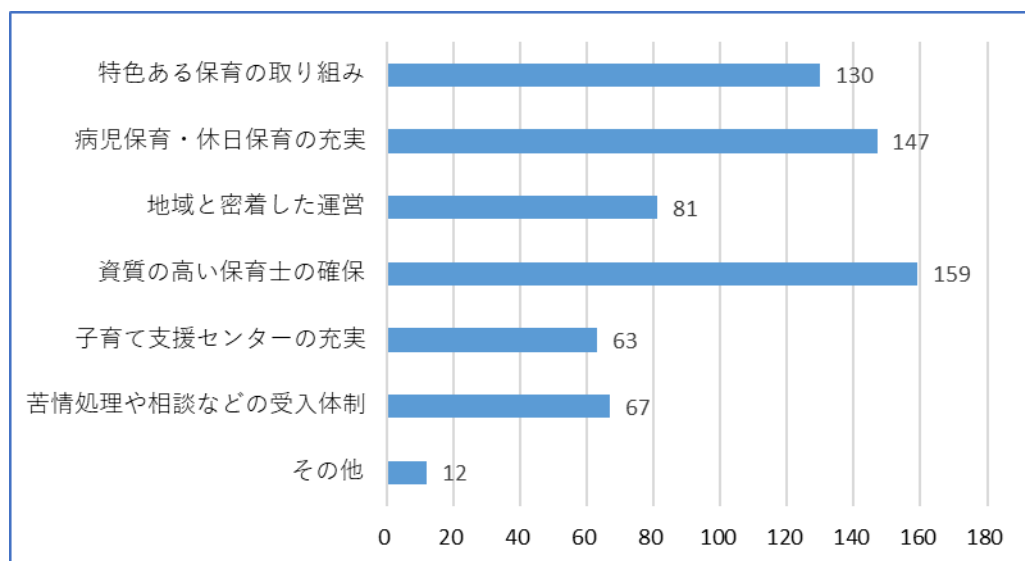
問 12 お子さんが通っている教育・保育施設が指定管理者や民間事業者によって管理・運営されることになったら、どう思いますか。



- その他
- 民間の方針、園長の意志、市との連携など納得できるようであればよい
 - 現状に大変満足しており、変化は望みません。
 - 既に私立園なのでむしろ肯定的だが、逆に公立の質には期待できない。

問 11 では、新しい取り組みや多様なニーズへの対応など「期待できる」が約 34%である反面、約 56%はサービスの低下や保育の質の面で「不安」であると感じているが、問 12 では、「きちんと説明があり納得できれば良い」が約 51%を占めており、「良い」「何かメリットがあれば良い」を含めると約 71%であることから、説明により納得できるのであれば民営化も可能であると考えられます。

問 13 教育・保育施設が指定管理者や民間事業者によって管理・運営されることになったら、どんなことを期待し、又は要望しますか。(複数回答)



その他 ○保育士全員正社員採用を

○公立でも民間をこえる運営ができることをしめしてほしい

○子どもたちを大切にしてくれるなら良い

○支援が必要な子に対しても、個別に合った保育士の確保、教育・保育をしてほしい

○地域の声をきちんと聞いてもらえたら良いと思う

○きちんとした理念があり、職員間で連携のとれた環境下での保育を望みます。

4 今後の教育・保育施設の課題

(1) 羽ノ浦地区における人口減少と入園入所希望児童数の増加

少子高齢化の影響により、阿南市では平成28年と比較して就学前児童数が494人減少しているが、羽ノ浦地区では45人の減少に留まっている一方、保育所等への入園入所を希望する児童数は、子育て世帯の住宅の建築の増加などにより、羽ノ浦地区では平成29年以降増加傾向にあります。このことから、今後も教育・保育施設に対するニーズは高まっていくと予測されます。

(2) 今後の施設整備のあり方

現在の羽ノ浦さくら保育所、くるみ保育所の老朽化は著しく、アンケート調査結果からも早急な対応が求められています。また、施設の規模については、統合による大規模な施設よりも将来を見据えた規模できめ細やかな保育ができる環境となるよう考慮しながら認

定こども園へ移行も視野に入れる必要があり、今後の施設整備には、こうしたニーズを踏まえた上で、できる限り早期の整備が必要です。

(3) 民間活力の導入を視野に入れた施設整備のあり方

民間委託による保育所運営については、アンケート調査結果では期待と不安の両方があるが、「きちんと説明があり納得できれば良い」「何かメリットがあれば良い」を含め、良いと考えている保護者が7割を超えていることから、条件等について十分な説明があれば民間保育園の誘致も可能であると考えられます。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本計画

本市では、少子高齢化の影響により就学前児童数が減少している中、羽ノ浦地区では保育所等への入園入所を希望する児童数が増加傾向にあり、教育・保育施設に対するニーズは高まっていくと予想されています。しかしながら、羽ノ浦さくら保育所と羽ノ浦くるみ保育所においては老朽化が顕著化しており、また、一部耐震基準を満たしていない箇所があることも含め、アンケート調査結果では保護者の施設に対する不安は大きく、早急な施設整備が求められています。

今後の本市における教育・保育施設の施設整備については、第2期阿南市子ども・子育て支援事業計画により、認定こども園化を含めた令和4年度以降の施設整備を計画しており、今後、「阿南市保育所・認定こども園等施設整備計画」の策定により実施する予定ですが、まず、喫緊の課題である羽ノ浦地区の教育・保育施設について、将来を見据えた適切な規模による施設整備を行い、きめ細やかな保育を求める保護者ニーズを損なうことなく、耐震化及び老朽化の問題を解決する必要があります。

これらのことから、まず、羽ノ浦地区を本市における「認定こども園化及び民間活力の導入を視野に入れた施設整備」のモデル地区として先行実施を行います。

2 教育・保育の一体的提供

本市では、公立幼稚園・保育所の認定こども園への移行を進めており、現在6園の公立認定こども園が開設されています。幼稚園・保育所としてこれまで培われてきた知識・技能など双方の良さを生かし、認定こども園ならではの質の高い教育・保育の提供に引き続き努めていきます。また、民間法人による認定こども園への移行や新設を促進するなど、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。

3 民間活力の導入の推進と公立との連携

厳しい財政状況のもと、安心して快適な保育環境を可能な限り速やかに提供するため、公立保育所の建て替えによる環境整備とともに民間保育園の誘致を積極的に進め、公立と私立両面からのバランスの取れた保育環境の充実・整備を図ることにより保護者の幼児教育・保育施設に対する選択肢を拡大し、トータルとして公立保育施設における環境の充実、質の向上、保育士の処遇改善等を図り、多様化する保育ニーズへの対応に努めます。

民間資本導入の意義・必要性

- 民間と公立両面からの保育環境の充実による 保護者の選択肢の拡大
- スピード感のある保育環境の充実
- 民間保育園の充実と連動した公立保育所の施設環境の充実
- 民間保育園の拡充に伴う公立保育士の処遇改善及び公立保育所の質的向上

第4章 施策の展開

1 計画の進行

(1) 計画の進行管理

本計画については年度ごとに見直しについて検討を行うことで、計画を総合的かつ円滑に推進していきます。

なお、進捗状況については「阿南市子ども・子育て会議」へ報告し、今後の方向性についての意見聴取を行います。また、ホームページなどを活用し、計画の内容や進捗状況などの情報を公開し、幅広い意見を聴取しながら計画の推進に努めます。

(2) 社会経済情勢等に対応した計画の推進

本計画の推進にあたっては、子どもや子育て家庭を取り巻く環境、社会・経済情勢、国の政策動向などの様々な状況の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、適宜見直しを行うものとしします。